

サヨナラ原発福井ネットワーク通信 2017. 4. 10

連絡先: 福井県越前市瓜生町51-2- 若泉方 090-7083-8921

Waka3@rk9. so-net. ne. jp ホームページwww2. interbroad. or. jp/shimada/denuclear. html

郵便振替口座:00780-9-40314

No 11

1・22 敦賀集会の報告

若泉 政人

去る1月29日、関西電力高浜原発3・4号機の滋賀県大津地裁による仮処分決定に対する大阪高裁の判断がせまる中、敦賀市福祉総合センター「あいあいプラザ」ふれあいホールにて、「再稼働反対！原発のない福井をつくろう！福井県集会」を開催しました。主催はサヨナラ原発福井ネットワーク、協賛は福井から原発を止める裁判の会他でした。福井県内外から約150名の人たちが参加しました。

現在は、原発再稼働ではなく原発と福井の関係を見つめなおし、将来の望ましい福井を全県で議論してゆく段階に来ています。今回の集会は、そうした段階であるとの認識を共有し、嶺南からのそうした状況を考えてゆこうという声を聞くために企画しました。

昨年3月9日の大津地裁の同原発の運転停止の仮処分決定以後、福井県内での原発を巡る議論は、「早く動かせ」「地域経済の疲弊」の側面で語られることが多かったと思います。そこに昨年12月のもんじゅ廃炉の決定が重なり、現在、福井と原発の関係を全県で考える必要があるとする人は多いのではないのでしょうか。

しかし、西川知事や敦賀市長などは、もんじゅの廃炉決定について「地元を無視した」と主張するばかりです。知事や敦賀市長は、国と県のこのようないびつな関係は原子力発電というものの宿あであり、県と立地市町、立地市町と住民の関係でも再生産されていることを十分に知っているはずですが、そうであるならば、原発の本当の姿に向き合わず、原発がもたらす目先の経済的な影響だけを住民に説明すればよいとしている

としか考えられません。なぜなら、福島原発事故は未だ収束せず、事故原因も究明されていません。事故が起これば長期間にわたり広域が被害をこうむり、とてつもなく多くの人々が生活を奪われることを私たちは知っているからです。

集会の前にあいあいプラザを出発とゴール地点とし、敦賀駅を経由したコースでデモ行進を行いました。敦賀市内で私たちの「原発のない嶺南を作ろう！」というシュプレヒコールが響き渡りました。改めて言うまでもないことですが、私たちの活動を目に見える形で表現するデモは、メッセージを不特定の人々に街頭で伝える方法として重要だと思います。

集会は午後2時からスタート。高浜原発の大阪高裁の見通しや嶺南各地からの報告と原発から脱却する「自立」への取り組みの紹介。地道なピラ配りやアマーバデモを若狭、嶺南でやって下さっている関西の方々との若狭での体験など盛り沢山でした。

登壇された皆さんのお話の内容は以下の通りです（登壇順）。

- 中嶋哲演（原子力発電に反対する福井県民会議）
「福井からのメッセージ」
- 井戸謙一弁護士（福井原発訴訟[滋賀]弁護団長）
「原発再稼働差し止め訴訟について」
- 東山幸弘（ふるさとを守る高浜・おおいの会代表）
「高浜原発の現況」
- 仰木 明（若狭の原発を考える会）「1.22 関電本店 包囲報告」
- 橋田秀美（同）「若狭アマーバデモで教えられたこと これからの課題」
- 山本貴美子（原発住民運動福井・嶺南センター）
「もんじゅ廃炉、敦賀市はいま」

○松下照幸（森と暮らすどんぐり倶楽部）「美浜町の自立に向けて」

○岡山巧（「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局・真宗大谷派僧侶）「敦賀に生きた二人の菩薩—太田和子さんと杉原厚子さん—」

○山崎隆敏（若狭ネット）「財政問題を中心に検証」。

各登壇者が、嶺南で原発について発言していくことを考え、その上で何を伝えたいのかを自分の言葉で語り、聴く側が共鳴するという非常に充実した時間と内容でした。具体的な議論の中身はもちろん大切です。しかし、その議論をするための環境づくりもとりわけ嶺南では重要だという思いを新たにしました。最後にアピール文を採択しました。

これを機に、原発脱却の議論を嶺南でも行っていけるよう継続して取り組んでゆきたいと思いを新たにしました。特に嶺北が嶺南にリスクを負わせていることの認識は、県外の方から何度か指摘されたことです。嶺南嶺北の関係は、歴史的な経緯もあり簡単に線を引いて区分し、議論するようにはいかない複雑な問題をはらんでいると思います。私を含め、そうした関係の問題を認識しなければ、原発がなくなっても「原発的なもの」はなくなるのではないのでしょうか。

3月28日、大阪高裁は大津地裁の仮処分決定を取り消しました。国は不合理なことはしないという前提に立った決定です。裁判長には、科学的に議論し直すことが指摘されている基準地震動の問題や、事故の際の避難計画の非現実性など問題は見えないのでしょうか。続く広島地裁の四国電力・伊方原発の仮処分申し立ても残念な結果となりました。しかし、世論調査の結果、原発再稼働に反対の割合は多数を占めています（反対57% 2017年2月21日朝日新聞）。あきらめず小さな歩でも続けていきたいと思います。

◎再稼働反対！原発のない福井をつくろう！福井県集会 ※動画がご覧になれます

<https://youtu.be/aHTNpdzP3mg>

島崎邦彦氏証人尋問に向けて

福井から原発を止める裁判の会

嶋田千恵子

原発の運転をめぐる裁判の動きは全国規模でありました。皆様のご記憶にあるのは、2016年3月9日の大津地裁仮処分決定により高浜3・4号機が運転停止したことでしょう。仮処分という裁判の力の大きさを実感できました。

ところが、関西電力が大阪高裁に抗告したために、舞台は大阪に移り、抗告審が開かれて先の3月28日 決定がとりけされました。再稼働がみとめられたのです。

その決定の内容は、規制委員会の基準に合格すればよい、というもので福島事故を全く顧みないものでした。司法の責任を鋭く迫られているにも拘わらず、また伊方原発の最高裁判決 「万が一にも事故をおこしてはならない」という基本にも合致しないものです

私たちは、この決定に強く抗議し、サヨナラ原発福井ネットと連名で声明文をだしました。

そのわずか2日後、広島地裁で伊方原発3号機運転仮差し止めの決定がだされました。これも非常に問題がある決定です。各地の裁判の枠組みが異なるのは好ましくない。既に出ている福岡高裁宮崎支部の決定に則って判断するというのです。これは司法の独立を自ら放棄し、上級審の決定に唯々諾々としている姿勢です。裁判所をこのようにあらしめているのは、安倍政権の原発を維持するという姿勢です。それが、規制委員会が原子力推進委員会としてふるうようにさせ、最高裁の意思として、各地の高等、地方裁判所の裁判官の判断に反映されているというわけです。

2月の時点で既に4月24日 元原子力規制委員会委員長代理であった島崎邦彦氏が 大飯原発訴訟の第11回口頭弁論で証言されることになっていました。島崎氏は現在の基準地震動の決め方（入倉・三宅式）では過小評価になっていると、学会で発表されています。元原子力委員会委員長代理をつとめた人の証言は非常に重要なものと考え、裁判長も証人に採用しました。

全国の原発裁判を闘う人々、反原発で日頃運動している人々、原発を不安に感じている人々はこの裁判を、固唾をのんで見守ることでしょう。

最近の裁判状況

鹿島 啓一 弁護士作成 (嶋田 改変: 作成時から経過しているため)

1. 近々判決や決定が出そうな原発裁判

伊方3号	松山地裁 大分地裁 山口地裁	仮処分	2017. 01. 20 審理終結 2017. 05. 11第7回審尋予定 2017. 03. 03申立て
玄海3・4号	佐賀地裁	仮処分	2017. 01. 16審理終結 #大阪 2017. 03. 03申立て(一万人)
大間原発	函館地裁	本訴	2017. 06. 30結審予定
大飯3・4号	名古屋高裁 金沢支部	本訴	2017. 04. 24 証人尋問予定

#は大阪のグループ。1万人は一万人訴訟グループ。

2. 本訴と仮処分のメリット・デメリット

本訴 (本案訴訟)	仮処分 (保全)
- 判決が確定しなければ効力が生じない。	+ 直ちに効力が生じる。
+ 確定判決の内容を争うことはできない。	- 本訴によって覆される可能性がある。
- 判決が出るまで時間がかかる。	+ 早期に決定が出る。
+ 証人尋問ができる。	- 証人尋問は通常行われない。
+ 公開 (傍聴可)。	- 非公開 (傍聴不可)。
+ 損害賠償責任を負わない。	- 損害賠償責任を負う可能性がある。
+ 保証金は不要。	- 保証金を求められる場合がある。
- 印紙代が高い。	+ 印紙代が安い。

3. 福島第一原発事故後の勝訴判決・決定

- ① 2014. 05. 21福井地裁大飯原発3・4号機運転差止判決 (本訴) →名古屋高裁金沢支部で控訴審係属中
- ② 2015. 04. 14福井地裁高浜原発3・4号機運転差止仮処分決定 →異議審で取消し→抗告審で取下げ
- ③ 2016. 03. 09大津地裁高浜原発3・4号機運転差止仮処分決定 →運転停止 →異議審で維持→大阪高裁で抗告審係属中→2017. 03. 28 仮処分取り消し

4. 行われる予定の証人尋問

- ①名古屋高裁金沢支部 大飯原発3・4号機運転差止請求控訴事件 (予定)
2017. 04. 24島崎邦彦氏 (元原子力規制委員会委員長代理) : 入倉・三宅式問題

日常行動のなかで

石森 修一郎

昨年の6月20日からまもなく300日目を迎えます。酷暑の夏を超えて、厳寒の冬に耐えて桜が咲き春が来ました。2020年の春までまだまだですね。

今回は老朽原発(高浜原発1*2 大飯原発1*2美浜原発3号機)にターゲットを絞りました。老朽人間の私が耐えられる持続可能な闘い方を試行錯誤しながら楽しんでやっています。県庁前に横断幕や幟(のぼり)を掲げ、一等地で占拠しているのですから、風当たりは強いのです。



昨年のもんじゅの廃炉あたりから、公安委の方が細かく注文をつけ始めました。誰かに言われ仕方なくということ。5、6人で押し掛けて来て、幕が植え込みに触れているとか、幕が風に飛ばされて車に当たり重大事故になるとか、いちやもんですよね。極めつけは幕の近くから離れるななどのお達しです。毎日のマイクアピールは図書館で新聞雑誌からネタを毎日インプットしなければ成り立たない、言論に対する弾圧だと抗議しました。その結果、私の判断でよいとの返答をもらいました。半分の県民は原発推進派ですから、内心面白くないのは仕方ありません。でも石やかんしゃく玉、罵詈雑言を浴びせることは日常茶飯事でした。

さてついに事件が起こりました。昨年の12月30日の夜に横断幕が持ち去られました。翌朝、気づいた私は大手交番に盗難届け先出しましたところ不思議なことが起こりました。犯人が横断幕を開発の福井警察に届けて来たというのです。間もなく私の元に横断幕が帰ってきました。犯人がある右翼団体の代表と聞いて、何故なのか、理解できませんでした。その後 謝罪もなく、いやがら

せは続いています。

さらに3月31日、マイクアピール終了時に福井県の財産活用課長と課長補佐が怪文書？を持参しました。公安委員会に毎週申請して許可を得ているのに、「市民活動を控えて下さい。お願いします」との内容ですが、公文書にしては余りに稚拙で到底理解に苦しむ内容です。高浜原発の再稼働近しというタイミングでなにを仕掛けて来たのか？ 事実は小説より奇なり、さてどうなりますか…。

敦賀に生きた二人の菩薩 —太田和子さんと杉原厚子さん—

岡山 巧

「何かおもっしえいことないか」

それがあいさつ言葉だった。戦時中、周りから何度も疎開を勧められたけれども、神風が吹くから大丈夫と判断。しかし、1945年7月12日、敦賀市街地はB29編隊92機に焼夷弾を投下され、家財全てを焼かれてしまう。親戚の元で暮らすことになるが、心は安まらない。福島で避難生活されている人々の現在と自分が重なる。

戦争体験を通して身に染みたこと。国は真実を伝えない。国民を犠牲にする。だから、国にだまされるような人間にならないように広く深く学ぼう。敏感になろう。障害児担当の教職を退いてからは、自宅を開放。子どもたちを預かり、一緒に暮らした。結婚を考えた時期に年齢的に釣り合うような男性は近くにいなかった。戦争とはそういうこと…と語り、ぼくを実の子か孫のように大事にしてください。

出合いは、原子力行政を問い直す宗教者の会主催による「2008敦賀全国集会」。もんじゅの運転再開に反対して、「原発と戦争」「原発と地震」という二つの課題を立て3日間の日程が組まれた。プログラム最後、全体討論の場で「皆さんに是非とも訴えたいことがあります。もんじゅから10キロくらい、家の周囲に住んでいるのは原発関係者ばかり。そんなところにいます」挙手されて話は始まった。そして、教え子が何人も原発の最前線で「ネジってなもん締めるだけに3分働けばいい」「それで1万円もらえる」被曝労働に就き、甲状腺や肝臓等を病み亡くなっている。「悲しくて悲しくてたまらんような話をこの頃聞くんです」と。

3. 11後、ようやく少し報道されるようになった原発被

曝労働問題。この半世紀で約50万人という実態が明らかになっているが、政府・マスコミによる情報操作（プロパガンダ）によって隠されてきた。だまされている人々にそれを認識させないことこそ、プロパガンダの目的（本間龍「原発プロパガンダ」）と指摘される通り、原発はクリーン、国民のためにある、そんなイメージばかりが注がれ続けた。

明治維新後、富国強兵のかけ声で戦争を美化し国内外の人々を傷つけた国策という権力による暴走は、戦後、原発という姿に変えて繰り返されていたのである。その愚かさに目覚め、怒りをもって行動された杉原厚子さんの最後の仕事は、93回目の誕生日を前にした今年4月、神田香織講談会「福島の折り」。福井の入院先から駆け付け「原発はいりません」とあいさつされた声が耳の底に残る。

9月15日入寂。合掌。

廃炉ビジネスと貯蔵ビジネス(使用済核燃料の中間貯蔵)についての、 県民的な議論を始めよう！

政府は、廃止された原子炉を解体・撤去し、放射性廃棄物を埋設処分・再利用する計画です。しかし、原子炉解体は深刻な労働者被曝をもたらし、また、廃棄物埋設処分・再利用が新たな放射能汚染をもたらします。

つまり、「廃炉ビジネス」を進める者は、好むと好まざるとに関わらず、労働者被曝を強要し、放射性廃棄物処分一般公衆に被曝を強要する立場に立つことになるのです。それに、埋設処分場も見つかり得ないことから、原子炉を解体せず長期間密閉管理する廃止措置計画へ転換すべきでしょう。

解体作業は通常の火力発電タービン施設や一般建築物の解体作業の域を出ず、長期的な産業育成や雇用確保につながるような代物ではあり得ません。

原子炉周辺の高度に放射能汚染された区域での解体作業は「高線量下の遠隔作業を必要とする限りで見かけ上の高度な技術開発」につながるとはいえ、原発解体作業以外への汎用性はなく、何よりも解体作業によって生み出される放射性廃棄物に行き先はないのです。

当面は、汚染されていない建屋の解体に留め(その作業で雇用は保たれる)るべきです。

使用済核燃料の中間貯蔵施設について、「プール貯蔵は危険であり、早期に乾式貯蔵へ移行すべき」という意見がありますが、果たしてそれは正しいことなのでしょうか。それについても、県民的な議論をしっかりと進めてゆく必要があります。

第4回パネル展 「老朽原発の延命を考える」

2016年9月23・24日アオッサ アトリウムにて
酒井照子

昨年9月アオッサでのパネル展、みなさま ご覧いただけましたか？ 2013年からのパネル展は、もう4回目となりました。

例え古くなくとも、そこにあるというだけで原発は危険なものです。ところが関西電力は、運転開始から40年も経つ高浜1・2号機と美浜3号機、その老朽原発の運転延長を目論み、原子力規制委員会はその審査を通してしまおうのです。

こんな無謀な事がおこなわれることを、世間に広く知らせなければ、と、私たちは危機感を持ち「老朽原発の延命を考える」を今回のテーマとしました。

収束の見通しもつかない福島原発事故を受けて、国は運転開始から40年を超える原発は廃炉へという法令を出しました、ただし例外も有りです。

パネル展では 美浜2号機、美浜3号機、福島1号機の3件の事故。圧力容器の脆性破壊の危険性や、ケーブル劣化の問題点。怒りと絶望の、原発の象徴とも言える処理方法のない高レベルの核のゴミ！

これら老朽原発の問題点を19枚のパネルで展示しました。

そして、ありのままの現実を写し撮った写真。それはどんな理屈も通用しない、6年経った今も福島にある現実。その現実を観て欲しいと写真も沢山展示しました。

今回は「福井から原発を止める裁判の会」との共催です。原発の保安会社で仕事をされたことのある方の経験と知識を元にした強力なサポートもいただきました。

パネル化に当たっては、難解なテーマをわかり易く、この事をまず最優先としました。色んな角度から危険度を探り、工夫して展示してみました。最後しつかり見えてきたこと。

政府が掲げる(40年で廃炉に)と言うこのルールには、[技術的根拠は何も無い]と言うことです。40年を経なくても深刻な事故は何件も起こっています。延命など以ての外。最初にした通り、そこにあるだけで危険な原発、とにかく監視し意見を言い続けていきましょう。パネル展もその1環です。

パネル展について 40年廃炉を考える
—私たち素人が参加できる議論にするため—
山崎隆敏

阪大の久米三四郎先生(故人)が、「原発は新しくても安全ではない」とロクセのように言われていたことを思い出しています。

たとえば米国のスリーマイル島原発や旧ソ連のチェルノブイリ原発(いずれも運転開始1~2年目の新鋭原発)がそうであったように、新しい原発であろうと、ささいなトラブルが引き金となって大事故に発展する危険性を常に内包しているのです。

そして、そもそも民主党政権時代に政府が原発の寿命を40年と定めたのは、あくまでも安全より経済に配慮した政治的判断で、技術的な根拠に基づいているわけではありません。たとえば、WH社(加圧水型軽水炉=関電の原発)は、耐用年数を30年として設計しているのです(GE社の沸騰水型=福島・敦賀1の設計寿命は40年)。

また、原発が運転を始めた初期には、原発の減価償却期間と耐用年数は同じと考えられていました。たとえば、読売新聞は1971年に「原子炉の耐用年数は平均15年~20年」といわれる。耐用年数の過ぎた原子炉はもちろん運転休止にするが、取りこわすには放射能が飛び散るので、そのままの状態にしておくというのが学界や電力会社の方針」と書いています。

さて、2011年の時点で若狭にある関電の原発9基はすでに30年の耐用年数を超えていました。技術的根拠のない40年にこだわりすぎると、大飯3・4と高浜3・4は30年そこそこですから、「法的寿命」に関しては合格となります。

また、敦賀でも美浜でも古い原発を廃止する代わりに新しい原発を求める世論が強くなりましたが、その声を間接的に擁護することにもなりかねません。

しかも、40年を超えた原発といっても、原子炉以外は、ほとんど取り替えていて新品になっています(もちろん、原子炉容器だけは取り替えることができず、その脆性劣化は深刻な問題です)。したがって、機器の老朽化の問題だけを取り上げて関電や政府と議論すると、「傷んだ機器は修理保全、あるいは取替えています」と反論され、私たち素人では水掛け論に終わりがねません。

ですから、機器の老朽化の問題とあわせ、「維持基準」の問題なども含めて、電力会社の経済性優先の思想(定短縮・長期連続運転など)をトータルに批判してゆくべきでしょう。

2003年に導入された「維持基準」について説明します。維持基準の導入前は、古い原発の機器でも新品と同様な性能が求められていました（「設計・製造基準」）。つまり、運転中の原発は常に、新品同様の状態でなければならなかったのです。

しかしそれでは、定期検査が長引き、原発の経済性が損なわれるため、政府は維持基準を導入し「この傷なら次の定検まで持つだろう。修理や交換は次回に」と判断すれば、そのまま運転を継続してもよいとしたのです。それまでも定期検査で見逃していた傷や定検そのものを怠っていた箇所は無数にありましたが、経済性優先でさらに基準を緩めたのです。

美浜2号や3号の事故は、機器の老朽劣化と経済性優先（定期検査の短縮や長期連続運転）が原因です。美浜3号での11人の死傷者は「維持基準」の犠牲ともいえます。定検短縮のため、彼らはまだ動いている原発に入り高温の蒸気を浴びたのです。

また、美浜2号では、定期検査で「健全管」と見なされた細管が折れました。炉心上部では沸騰が始まり、あと一歩で熔融に進む恐れがありました。何より問題なのは、私たち素人が細管破断の恐れがあると警鐘を鳴らし続けていたのに、関電も県も国も「運転中の破断はない」と突っぱねたことです。破断前に微小の漏れを検知できるという「LBBの思想」は破綻しましたが、その後も反省はありません。資源エネルギー庁は「日本でもチェルノブイリのような過酷事故はおこりうる」と認識を転換しました

が、その対策は盛られませんでした。

関電は、蒸気発生器の中に「触れ止め金具」が入っていなかったため細管が大きく振れ破断したと結論づけました。しかし、実際には微小な振動しか起きていません。その繰り返しによって細管が疲労し破断したのです。関電とは長く論争しました。その後、関電は巨大で高額な蒸気発生器を取り替えています。今日また、損傷細管が増えてきている炉もあります。

高温高压の過酷な環境下、長年にわたる中性子の照射で原子炉容器が粘りを失いもろくなっている問題も80年代から指摘されてきました。もし、炉心の冷却水が失われる事態が起き、緊急冷却水が急激に炉の中に入ると、熱衝撃で原子炉が破壊されてしまうという恐ろしい話です。

2016年活動報告

3月4日	福井県知事に要請書提出
3月11日	裁判の会の3・11集会に参加
3月13日	3・11メモリアルアクション小浜市 参加
3月23～24日	再稼働阻止ネット相談会参加 於 伊方 1名参加
5月27日	福井と若狭の明日を考える 熊本地震と基準地震動 廃炉原発の解体措置について 長沢啓行さん
6月11日	美浜を原発のない町に 美浜町 参加
7月1日	サヨ原通信発行
7月8日	原子力規制委員会へ一斉抗議
7月23日	伊方原発再稼働し阻止集会 1名参加
8月19日	高浜・大飯原発広域避難訓練に関する公開質問状
8月28日	基準地震動の過小評価 講師 長沢啓行氏
9月22日～24日	第4回アオッサパネル展 40年超えの原発の危険性
11月28日	原子力防災計画改定に関する公開質問状
12月9日	県原子力安全専門委員会に要請書を出す

2016年度会計報告 五十嵐靖子

項目	収入	支出	備考
前年度繰越金	451,639		
会費・カンパ	295,500		
旅費諸経費		35,733	伊方原発へ2回、各1名
対外関係費		10,160	集会・署名賛同費
サヨ原通信費		23,752	郵送代
事務関係費	4,800		封筒、のり、印刷代等
事務関係費		702	振替用紙購入
会議費		1,406	
その他		6,404	トランペットなど修理消耗品
小計	747,139	82,957	

講演会催し等の会計

アオッサパネル展		18,001	㊦「裁判の会」と共催の為 費用折半
福井県への要請		3,570	長沢啓行さんの地震動の講演DVDを県の安全専門委員に届ける
再稼働反対集会（敦賀）		10,044	2017年1月開催、12月までの費用
小計		0	31,615
合計	747,139	114,572	
次期繰越金	632,567		